

国名	VNACCS による税関行政近代化プロジェクト
ベトナム	

I 案件概要

事業の背景	ベトナムは、魅力的な投資・ビジネス環境を確立するため、ナショナル・シングルウィンドウ実用化や通関手続きの簡素化・国際的調和化といった税関行政の近代化を推進してきた。ベトナム税関総局（GDVC）は、法・体制整備や人材育成を進め、情報技術（IT）システムを構築することを、税関行政の近代化を実現するための重要な戦略として位置づけていた。このような状況下、日本政府は、ベトナムの要請に基づき、日本の税関 IT システムである「輸出入・港湾関連情報処理システム（NACCS）及び税関情報システム（CIS）」をモデルとした税関 IT システムを確立するため、無償資金協力「税関近代化のための通関電子化及びナショナル・シングルウィンドウ導入計画」 ¹ と法制度、運用・保守体制の構築及びベトナム版の「輸出入・港湾関連情報処理システム（VNACCS）及び税関情報システム（VCIS）」に必要な人材育成を目的とした技術協力プロジェクト ² を実施した。これまでの支援で構築された体制の効果を安定させ、さらに強化するために、追加支援が必要であった。		
事業の目的	本事業は、ベトナムにおいて、(1)VNACCS/VCIS の利活用強化、(2)事後調査（PCA）の効率化、(3)ベトナムでのリスク管理に関する税関職員の能力強化によって、VNACCS/VCIS の更なる有効活用による税関業務の改善を図り、もって貿易円滑化の促進に寄与することをめざす。		
	1. 上位目標：税関手続きの更なる近代化により、貿易円滑化が促進される。 2. プロジェクト目標：VNACCS/VCIS の有効活用によって税関業務が改善される。		
実施内容	1. 事業サイト：ベトナム全土（主としてハノイ市） 2. 主な活動： （1）VNACCS/VCIS の利用状況のレビュー、（2）更新項目の特定、（3）VNACCS/VCIS 改善のための措置、（4）PCA 実務のレビュー、（5）PCA 運用に関するガイドライン及びマニュアルの改善、（6）PCA に関する税関職員向けの研修の実施、（7）リスク管理に関する能力向上方策の特定、（8）リスク管理に関する税関職員向けの研修の実施。 3. 投入実績 日本側 （1）専門家派遣 5 人（長期）、44 人（短期） （2）研修員受入 38 人 （3）現地業務費 相手国側 （1）カウンターパート配置 20 人 （2）土地建物 プロジェクト事務所、会議室、研修施設		
事業期間	（事前評価時）2015 年 8 月～2018 年 6 月（35 カ月） （実績）2015 年 8 月～2018 年 6 月（35 カ月）	事業金額 （日本側のみ）	（事前評価時）243 百万円 （実績）366 百万円
相手国実施機関	ベトナム財務省 税関総局（GDVC）		
日本側協力機関	なし		

II 評価結果

【評価の制約】

- ・本事業の記録・報告書の一部が欠落していたため、代替資料（先行事業の事後評価データ）を参照した。
- ・新型コロナウイルス感染症の蔓延により、経済や日常生活の様々な活動が阻害され、税関業務も一層複雑化した。このような厳しい状況下で、新たな調査を行うことが困難であったため、既存の調査結果や入手可能なデータを活用して評価を実施した。

【留意点】

<プロジェクト目標の達成状況及び事業効果の継続状況の評価>

- ・指標 1「通関所要時間が短縮される」には、数値目標が設定されていないため、本事後評価調査では、通関所要時間の減少傾向があるかどうかで検証することとした。この判断基準は、事業効果の継続状況の検証にも適用する。
- ・事業効果の継続状況を検証するためには、VNACCS/VCIS の有効活用に伴い、税関行政の業務が継続的に改善されているかどうか、VNACCS の活用状況や PCA の実施状況を検証することが重要である。そこで、本事後評価では、「①VNACCS の活用状況、及び②PCA の実施状況は 2018 年以降変化したか」をそれぞれ補完情報 1 及び 2 とした。

<上位目標の達成度の評価>

- ・指標 1「効率的な貿易処理に関する指標が改善されている」には、数値目標が設定されていない。本事後評価調査では、物流パフォーマンス指標（LPI）等の効率的な貿易手続きの指標の改善状況により、指標の達成度を検証することとした。

1 妥当性/整合性
<妥当性> 【事前評価時のベトナム政府の開発政策との整合性】 本事業は、事前評価時点におけるベトナムの開発政策と整合性が高い。ベトナム政府は、2014 年 3 月 18 日付政府決議第 19 号/NQ-CP「ビジネス環境と国家競争力を向上させるための主な役割と解決策」の中で、行政手続きの改善や簡素化を推進し、行政機関の透明性と説明責任を強化し、これによってビジネス環境の改善と国家の競争力を高めることを打ち出している。行政手続きには通関業務も含まれており、通関手続きの短縮が目標として掲げられている。さらに、ベトナム政府は「2020 年までの税関近代化戦略」及び「税関改革・開発・近代化計画（2011 年～2015 年）」を策定し、税関業務の改革と近代化を推進し

¹ 無償資金協力：税関近代化のための通関電子化及びナショナル・シングルウィンドウ導入計画（2012 年～2014 年）

² 技術協力：通関電子化促進プロジェクト（2012 年～2015 年）

ている。

【事前評価時のベトナムにおける開発ニーズとの整合性】

本事業は、上記「事業の背景」で述べたように、事前評価時において、VNACCS/VCIS の有効活用に沿った税関業務の改善という開発ニーズと整合性が高い。

【事業計画/アプローチの適切性】

本事業の計画/アプローチは適切であり、事業計画/アプローチに起因する課題は確認されなかった。

【評価判断】

以上より、本事業の妥当性は③³と判断される。

<整合性>

【事前評価時における日本の援助方針との整合性】

本事業は、事前評価時の日本の「対ベトナム社会主義共和国国別援助方針」（2012年12月）と整合している。同方針の3つの重点分野の1つに「成長と競争力強化」が掲げられており、日本がベトナムの市場経済制度の改善、財政・金融改革、産業開発・人材育成を支援することが明記されている。加えて、本事業の目的は、アジアにおける貿易円滑化を加速させようという日本の政策「アジア・カーゴ・ハイウェイ」構想とも合致している。

【JICA他事業・支援との連携/調整】

事前評価時または事業実施中において、本事業とJICAの他の事業との連携/調整は、明確に計画されていなかった。

【他機関との連携/国際的枠組みとの協調】

事前評価時または事業実施中において、他の機関（ドナー、NGO、大学、民間企業/国際的な枠組み）との連携/協調は、明確に計画されていなかった。

【評価判断】

以上より、本事業の整合性は②と判断される。

【妥当性・整合性の評価判断】

以上、本事業の妥当性及び整合性は③と判断される。

2 有効性・インパクト

【プロジェクト目標の事業完了時における達成状況】

事業完了時までに、プロジェクト目標「VNACCS/VCISの有効活用によって税関業務が改善される」は一部達成された。指標1「通関所要時間が短縮される」⁴については、簡易審査の通関時間（輸出入）（平均）は、事業完了時まで「0」であったが⁵、書類審査にかかる通関時間（平均）は、事業期間中は輸出入とも短縮されなかった。これは、申告書の絶対量の大幅な増加、輸出品の高度化、輸出者が提出する書類の質の低さ、輸出市場の貿易摩擦の影響等、税関職員が確認に時間がかかる複数の要因によるものである。指標2「通関手続きに関する利用者の満足度が向上する」については、記録確認、現物確認、免税の検討、還付手続き、税金滞納に対する手続き納税債務などが含まれる通関手続きに問題があるとした企業の割合が、2016年は前年の2015年に比べて減少したこと、また、否定的な意見がないことから、一定の満足度が確保されていると推察された。税関支署の職員や一部の企業によると、VNACCS/VCISは業務効率を大幅に向上させたとして、全体的に高い評価を得ているとのことであった。

【事業効果の事後評価時における継続状況】

事後評価時点で、本事業の効果は、継続している。輸出入ともに簡易審査での所要時間（平均）は「0」を維持している。輸入の書類審査にかかる通関所要時間は19.7%短縮されたが、輸出に関しては23.4%増加した。輸出に関する通関所要時間が増加した理由は、輸出品の高度化と輸出市場における貿易摩擦の激化のため、税関職員が輸出関連書類により注意を払うことが必要となったためである。今回の調査では、VNACCSが継続的に利用されていることが明らかになった。2018年から2022年の期間で、輸出入の申告件数のうちVNACCSを通じた申告件数が増加していることが明らかになり、VNACCSの利用は高水準を維持している（補完情報1）。なお、本事業によって強化されたPCAは、新型コロナウイルス感染症の影響とビジネス・投資環境と国の競争力向上のために企業に対する検査を削減するとして政府政策の影響を受けている（補完情報2）。企業の満足度については、2018年と2020年にアメリカ合衆国国際開発庁（USAID）、ベトナム商工会議所（VCCI）、GDVCが共同で実施した「輸出入手続きの実施に関する企業の満足度に関する報告書」⁶によると、税関手続きに関する情報入手方法全般に関して、企業の満足度は若干上昇した。GDVCと地方税関の職員の対応についての企業の満足度も、プラスの傾向を示している。新型コロナウイルス感染症の影響で、2022年の調査は実施されなかった。

【上位目標の事後評価時における達成状況】

事後評価時までに、上位目標「税関手続きの更なる近代化により、貿易円滑化が促進される」はおおむね計画どおり達成された。

指標1「貿易手続きの効率化指標」については、目標年である2021年のデータが入手できなかったが、2023年のLPIによると、LPI総合スコアは2018年の3.27から2023年には3.3に若干上昇した。6つの主要な指標のうち、通関プロセスの効率性を検証する項目に関しては、2018年から2023年にかけてパフォーマンスが若干であるが向上している。指標2「税関手続きの近代化と貿易円滑化に関する企業の評価」は、上述の報告書から、VNACCSから提供される情報の質や税関職員のサービスの質について、肯定的な評価をした企業の割合が2018年から2020年にかけて若干増加した。本来複雑で事務的な手続きの円滑化については、若干ではあるが肯定的評価の割合が増加した。

³ ④：「非常に高い」、③：「高い」、②：「やや低い」、①：「低い」

⁴ 事業実施中は、タイムリリースに関する調査報告書は公開されていなかったため、指標1は、技術協力プロジェクト「ベトナム通関電子化促進プロジェクト（2012年～2015年）」の事後評価調査で用いたデータを活用して検証した。

⁵ 簡易審査（リスクが低いグリーン判定基準のもの）では、企業が税関職員に審査書類を提出する必要がなく、審査・許可がVNACCS上で自動的に行われるため、企業が通関手続きの申請登録をしてから、自動的に許可がおりるまで0秒になる。

⁶ 同報告書は、税関・税制近代化のための措置の特定、主要タスクの実施評価、行政改革、ナショナル・シングル・ウィンドウに関する措置、ビジネス・投資環境の改善、税務・税関分野における国家競争力の向上を目的として企業からデータ・情報収集を行った調査に基づいて、VCCI、ベトナム税関、USAIDによって作成された。アンケートは約13,000の企業に送付され、約3,500の回答を得た。

【事後評価時に確認されたその他のインパクト】

VCCIの職員からは、VNACCS/VCISを通じた通関申告・通関手続きにおいて、システム化（ペーパーレス化）された手続きや税関職員との接触がない点が透明性の促進に寄与しているとのコメントがあった。

【評価判断】

以上より、本事業の有効性・インパクトは③と判断される。

プロジェクト目標及び上位目標の達成度

目標	指標	実績								情報源																																						
プロジェクト目標：VNACCS/VCISの有効活用によって税関業務が改善される。	(指標1) 通関所要時間が短縮される	達成状況（継続状況）：未達成（事業完了後に達成して一部継続） （事業完了時） ・本指標の達成度は、技術協力プロジェクト「通関電子化促進プロジェクト（2012年～2015年）」の内部事後評価調査により抽出されたデータを用いて検証した。データは当時ベトナム税関から提供されたものである。 ・2015年の簡易審査（輸出入とも）の通関に要した時間（平均）は「0」であり、それは事業完了まで維持された。一方、輸出入ともに書類審査の時間（平均）は、ベースライン（2015年）から事業完了（2018年）までの期間では、短縮されなかった。 （事後評価時） ・簡易審査（平均）は、事業完了後も「0」を維持している。輸入の書類審査は、事業完了後、19分48秒(2018年)から15分54秒(2022年)へ19.5%短縮された。しかし、輸出の場合は8分41秒（2018年）から10分43秒（2022年）へと23.4%増加している。この時間増加に関する要因として、考えられるのは、輸出品が高度化したこと、輸出者から提出された書類の質が低かったこと、輸出市場における貿易紛争（アンチダンピング調査、原産地証明書問題）等から、税関職員が確認により多くの時間を割かなければならなくなったことである。								JICA 資料、ベトナム税関への質問票や聞き取り																																						
		項目	ベースライン 2015年	2016年 ⁽¹⁾	2017年	事業完了 2018年	2019年	2020年	2021年 ⁽²⁾	事後評価 2022年	変化 (%) 2018年 2022年	1. 簡易審査（輸出入）（平均）	0	NA	0	0	0	0	NA	0	0	2. 輸入書類審査（平均）	14分21秒	NA	15分34秒	19分48秒	17分8秒	15分42秒	NA	15分54秒	-19.7%	3. 輸出書類審査（平均）	4分12秒	NA	5分35秒	8分41秒	6分45秒	9分58秒	NA	10分43秒	23.4%							
		項目	ベースライン 2015年	2016年 ⁽¹⁾	2017年	事業完了 2018年	2019年	2020年	2021年 ⁽²⁾	事後評価 2022年	変化 (%) 2018年 2022年																																					
		1. 簡易審査（輸出入）（平均）	0	NA	0	0	0	0	NA	0	0																																					
		2. 輸入書類審査（平均）	14分21秒	NA	15分34秒	19分48秒	17分8秒	15分42秒	NA	15分54秒	-19.7%																																					
3. 輸出書類審査（平均）	4分12秒	NA	5分35秒	8分41秒	6分45秒	9分58秒	NA	10分43秒	23.4%																																							
注釈：（1）データがない理由は不明。（2）新型コロナウイルス感染症の影響をうけ、データ収集はなかった。																																																
(補完情報1) VNACCSの活用状況								ベトナム税関																																								
(事後評価時) ・事業完了後から事後評価時までの税関申告件数は、輸入で19.2%、輸出で30.7%増加している。このような状況の中、VNACCS経由での申告件数の割合は、輸入の場合で平均95.1%、輸出の場合で平均99.4%を維持している。 税関申告の総件数に対する VNACCS 経由の申告件数の割合																																																
<table><tr><th>項目</th><th>2017年</th><th>事業完了 2018年</th><th>2019年</th><th>2020年</th><th>2021年</th><th>事後評価 2022年</th><th>変化 (%) 2018年 2022年</th></tr><tr><td>輸入申告件数</td><td>5,893</td><td>6,244</td><td>6,708</td><td>6,755</td><td>7,134</td><td>7,440</td><td>19.2%</td></tr><tr><td>VNACCS 経由の 輸入申告件数 とその割合</td><td>5,725 97.1%</td><td>6,114 97.9%</td><td>6,545 97.6%</td><td>6,512 96.4%</td><td>6,737 94.4%</td><td>7,072 95.1%</td><td>15.7% -</td></tr><tr><td>輸出申告件数</td><td>5,417</td><td>6,001</td><td>6,732</td><td>6,983</td><td>7,526</td><td>7,845</td><td>30.7%</td></tr><tr><td>VNACCS 経由の 輸出申告件数 とその割合</td><td>5,354 98.8%</td><td>5,968 99.5%</td><td>6,694 99.4%</td><td>6,941 99.4%</td><td>7,477 99.3%</td><td>7,795 99.4%</td><td>30.6% -</td></tr></table>								項目	2017年	事業完了 2018年	2019年	2020年	2021年	事後評価 2022年	変化 (%) 2018年 2022年	輸入申告件数	5,893	6,244	6,708	6,755	7,134	7,440	19.2%	VNACCS 経由の 輸入申告件数 とその割合	5,725 97.1%	6,114 97.9%	6,545 97.6%	6,512 96.4%	6,737 94.4%	7,072 95.1%	15.7% -	輸出申告件数	5,417	6,001	6,732	6,983	7,526	7,845	30.7%	VNACCS 経由の 輸出申告件数 とその割合	5,354 98.8%	5,968 99.5%	6,694 99.4%	6,941 99.4%	7,477 99.3%	7,795 99.4%	30.6% -	
項目	2017年	事業完了 2018年	2019年	2020年	2021年	事後評価 2022年	変化 (%) 2018年 2022年																																									
輸入申告件数	5,893	6,244	6,708	6,755	7,134	7,440	19.2%																																									
VNACCS 経由の 輸入申告件数 とその割合	5,725 97.1%	6,114 97.9%	6,545 97.6%	6,512 96.4%	6,737 94.4%	7,072 95.1%	15.7% -																																									
輸出申告件数	5,417	6,001	6,732	6,983	7,526	7,845	30.7%																																									
VNACCS 経由の 輸出申告件数 とその割合	5,354 98.8%	5,968 99.5%	6,694 99.4%	6,941 99.4%	7,477 99.3%	7,795 99.4%	30.6% -																																									

	(補完情報 2) PCA の実施状況	(事後評価時) ・税関と企業での PCA の年間実施件数と、PCA を通した関税の徴収額は以下のとおりである。事業完了後、PCA 実施件数、PCA による関税徴収額ともに減少している。これは、新型コロナウイルス感染症の影響や、2014 年から 2018 年にかけての決議 No. 19/NQ-CP 及び 2019 年以降の決議 No. 02/ND-NQ における、ビジネス・投資環境及び国家競争力の改善を目的とした、企業に対する検査や不必要な手続きを削減する政府の方針によるところもある。 <table><tr><th>項目</th><th>2017 年</th><th>事業完了 2018 年</th><th>2019 年</th><th>2020 年</th><th>2021 年</th><th>事後評価 2022 年</th><th>変化 (%) 2018 年 2022 年</th></tr><tr><td>税関及び企業での PCA 実施件数</td><td>8,990</td><td>6,320</td><td>4,673</td><td>1,827</td><td>2,012</td><td>3,043</td><td>-51.9%</td></tr><tr><td>PCA による関税徴収額 (10 億ベトナムドン)</td><td>2,454</td><td>2,171</td><td>2,263</td><td>1,397</td><td>962</td><td>711</td><td>-67.2%</td></tr></table>	項目	2017 年	事業完了 2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	事後評価 2022 年	変化 (%) 2018 年 2022 年	税関及び企業での PCA 実施件数	8,990	6,320	4,673	1,827	2,012	3,043	-51.9%	PCA による関税徴収額 (10 億ベトナムドン)	2,454	2,171	2,263	1,397	962	711	-67.2%	ベトナム税関											
項目	2017 年	事業完了 2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	事後評価 2022 年	変化 (%) 2018 年 2022 年																															
税関及び企業での PCA 実施件数	8,990	6,320	4,673	1,827	2,012	3,043	-51.9%																															
PCA による関税徴収額 (10 億ベトナムドン)	2,454	2,171	2,263	1,397	962	711	-67.2%																															
	(指標 2) 通関手続きに関する利用者の満足度が向上する	達成状況 (継続状況)：おおむね計画どおり達成 (継続) (事業完了時) ・VCCI の報告⁷によると、2016 年に記録確認、現物確認、免税の検討、還付手続き、納税債務などを含む通関手続きに問題があったとした企業の割合は、2015 年に比べて減少した。GDVC への一般クレームを含むクレーム件数は、事業実施前と比べて減少した。地方税関職員や一部の企業によると、VNACCS/VCIS は業務効率を大幅に向上させたとして、全体的に高く評価された。 (事後評価時) ・2018 年に USAID、VCCI、GDVC が共同で実施した「輸出入手続き実施に関する企業の満足度に関する報告書」によると、税関手続きに関する情報の入手方法全般の満足度が若干上昇している。税関当局ウェブサイトの情報へのアクセスのしやすさについては、「満足」⁽³⁾と回答した人の割合は、2018 年 62%から 2020 年には 73.1%に上昇した。同じく国家貿易ポータルへのアクセスについては、59%から 71.2%、税関当局への直接のコンタクトのしやすさに「満足」と回答した人の割合は、53.0%から 68.8%にそれぞれ上昇した。 ・税関担当者による対応に関して「満足」と回答した人の割合は、2018 年は対 GDVC が 50.0%、対地方税関が 59.0%であった。2020 年にはそれぞれ 63.0%、72.0%とやや増加した。2022 年は調査を実施していない。 注：(3)「満足」には、アンケートの 5 つの選択肢の中で最も高いレベルから 2 つの選択肢の結果が含まれている。	ベトナム税関																																			
上位目標： 税関手続きの更なる近代化により、貿易円滑化が促進される。	(指標 1) 貿易手続きの効率化指標	達成状況：おおむね計画どおり達成 (事後評価時) ・目標年である 2021 年のデータはない⁽⁴⁾。LPI によると、貿易手続きの効率性の指標項目については、2018 年の 2.95 から 2023 年の 3.1 に改善し、LPI 総合スコアも 2018 年の 3.27 から 2023 年に 3.3 へとわずかに上昇した。ベトナムのランキングは 2018 年の 160 カ国中 39 位から 2023 年には 139 カ国中 43 位となった。 <table><tr><th>指標</th><th>実績 事業完了 2018 年</th><th>実績⁽⁴⁾ 目標年 2021 年</th><th>実績 2023 年</th></tr><tr><td>税関：貿易手続きの効率性</td><td>2.95</td><td>NA</td><td>3.1</td></tr><tr><td>LPI 総合スコア</td><td>3.27</td><td>NA</td><td>3.3</td></tr><tr><td>ベトナムのランキング</td><td>160 か国中 39 位</td><td>NA</td><td>139 か国中 43 位</td></tr></table> 出所：2023 Logistics Performance Index (LPI) (worldbank.org) ・LPI (2023 年) は、通関パフォーマンス、インフラの質、出荷の適時性など、貿易に関する 6 つの側面に関しランク付けしている。このランキングに使用されているデータは、ロジスティクスの専門家を対象としたアンケート調査から得られたものである。 注：(4) LPI は新型コロナウイルス感染症により 2023 年まで更新されなかった。	指標	実績 事業完了 2018 年	実績 ⁽⁴⁾ 目標年 2021 年	実績 2023 年	税関：貿易手続きの効率性	2.95	NA	3.1	LPI 総合スコア	3.27	NA	3.3	ベトナムのランキング	160 か国中 39 位	NA	139 か国中 43 位	世界銀行統計																			
指標	実績 事業完了 2018 年	実績 ⁽⁴⁾ 目標年 2021 年	実績 2023 年																																			
税関：貿易手続きの効率性	2.95	NA	3.1																																			
LPI 総合スコア	3.27	NA	3.3																																			
ベトナムのランキング	160 か国中 39 位	NA	139 か国中 43 位																																			
	(指標 2) 税関手続きの近代化と貿易円滑化に関する企業の評価	達成状況：おおむね計画どおり達成 (事後評価時) 輸出入手続き実施に関する企業の満足度に関する報告書 <table><tr><th rowspan="2">質問項目</th><th>2018 年</th><th>2020 年</th></tr><tr><th colspan="2">回答した割合 (%) ⁽⁵⁾</th></tr><tr><td>情報の質</td><td colspan="2">全く同意/同意</td></tr><tr><td>税関手続きの申告様式がわかりやすい</td><td>89.0</td><td>95.3</td></tr><tr><td>税関手続情報が入手しやすい</td><td>90.0</td><td>94.4</td></tr><tr><td>企業に提供される情報が一貫している</td><td>91.0</td><td>93.8</td></tr><tr><td>手続きの円滑さ</td><td colspan="2">大変容易/比較的容易</td></tr><tr><td>税関申告</td><td>42.0</td><td>41.9</td></tr><tr><td>通関手続き：商品の検査</td><td>17.0</td><td>21.4</td></tr><tr><td>税金の還付・税金不徴収に関する税務管理手続き</td><td>17.0</td><td>21.2</td></tr><tr><td>行政違反の処理</td><td>12.0</td><td>17.7</td></tr><tr><td>苦情解決</td><td>11.0</td><td>17.8</td></tr></table>	質問項目	2018 年	2020 年	回答した割合 (%) ⁽⁵⁾		情報の質	全く同意/同意		税関手続きの申告様式がわかりやすい	89.0	95.3	税関手続情報が入手しやすい	90.0	94.4	企業に提供される情報が一貫している	91.0	93.8	手続きの円滑さ	大変容易/比較的容易		税関申告	42.0	41.9	通関手続き：商品の検査	17.0	21.4	税金の還付・税金不徴収に関する税務管理手続き	17.0	21.2	行政違反の処理	12.0	17.7	苦情解決	11.0	17.8	VCCI
質問項目	2018 年	2020 年																																				
	回答した割合 (%) ⁽⁵⁾																																					
情報の質	全く同意/同意																																					
税関手続きの申告様式がわかりやすい	89.0	95.3																																				
税関手続情報が入手しやすい	90.0	94.4																																				
企業に提供される情報が一貫している	91.0	93.8																																				
手続きの円滑さ	大変容易/比較的容易																																					
税関申告	42.0	41.9																																				
通関手続き：商品の検査	17.0	21.4																																				
税金の還付・税金不徴収に関する税務管理手続き	17.0	21.2																																				
行政違反の処理	12.0	17.7																																				
苦情解決	11.0	17.8																																				

⁷ VCCI が発表した 2016 年の税関行政改革手続きの評価、企業の満足度に関する報告

		税関職員のサービスの質		
		規律の実施		
		大変高い/高い		
		プロフェッショナリズムと礼儀正しさ	46.0	53.1
		指定された機能とタスクの実行状況	45.0	51.0
		技術面の知識		
		大変良い/良い		
		通関手続き	70.0	70.2
		税務管理手続き	66.0	68.0
		PCA の手続き	55.0	61.1
		問題解決のスキル		
		大変良い/良い		
		通関手続き	67.0	68.3
		税務管理手続き	62.0	65.3
		PCA の手続き	56.0	60.6
注：(5) 表中のパーセンテージは、5 段階評価の上位 2 つの選択肢 2 項目に対する回答の割合を表している。				

3 効率性

事業期間は計画どおり（計画比：100％）であったが、事業費は計画を大幅に上回った（計画比：151％）。事業費の超過は、ハードウェアの更新やリスク管理に対処するために必要なIT専門家チーム派遣の経費が追加されたためである。アウトプットは計画どおり産出された。

	事業金額（日本側の支出のみ、円）	事業期間（月）
計画（事前評価時）	243 百万円	35 カ月
実績	366 百万円	35 カ月
割合（％）	151％	100％

以上のことから、本事業の効率性は②と判断される。

4 持続性

【政策面】

VNACCS/VCISは2014年に正式に運用を開始し、税関の自動化と行政手続きの近代化に貢献してきた。運用開始からほぼ10年が経過し、社会経済発展における局面の変化や法文書の更新に伴い、税関手続きに関する国家管理の要件も変化してきた。そしてVNACCS/VCISの弱点や限界がいくつかみえてきた。さらに、ハードウェアの寿命が過ぎ、延長保証については、サプライヤーとの調整が必要となってきた。機器の交換ができないため、現行のシステムでは、運用リスクも高く、税関に関する国家管理で必要な新たな要件にも適合していない状況となってきた。

そこで、ベトナム政府と財務省は、VNACCS/VCISの継続的な運用を支援するのではなく、VNACCS/VCISの運用経験を基に、税関をデジタル化していくことを重視し、ビッグデータの活用や人工知能（AI）技術などの最新技術を採用した税関手続きの近代化を進める方針である。すなわち、2030年までに税関手続きのIT集中型システムの開発をめざす「税関発展戦略に関する首相決定No. 628/QD-TTg（2022年）」、及び税関手続きのデジタル変革のための新しいITシステムに関する「財務省決定No. 97/QD-BTC（2021年）」は、2021年から2027年にかけて実施される予定であり、ベトナム税関は、投資方針について財務省の承認を得ている（決議 No. 1957/QD-BTC（2023年9月15日））。ベトナム税関は、VNACCS/VCISの運用に基づき、デジタル税関のためのITシステム（ソフトウェアとハードウェアを含む）を開発/再設計し、マニュアルの更新を進めているところである。

【制度・体制面】

VNACCS/VCIS の運用・保守のために、税関 IT システム管理・保守センターの下に専門チーム（35 人）が設置されている。VNACCS/VCIS を常時稼働させておくため、同チームは1日24時間、週7日業務に従事している。また、VNACCS/VCIS の登録・運用について税関職員や企業をサポートするために、税関 IT・統計局によって設立・管理されており、8 人の職員からなるホットライン（ヘルプデスク）チームもある。多くの省の地方税関にも、VNACCS/VCIS の運用を支援するチームがある。さらに、VNACCS/VCIS に関するサプライヤー、国内販売店、関係団体との連携体制もとれるようになっている。しかし、税関のデジタル化が進むにつれ、将来の体制がどうなるかは不透明である。

【技術面】

VNACCS/VCISは、ベトナム税関とシステム開発会社との間の商業交渉が難航したため、更新されていない。しかし、GDVCは財務省からシステム再設計の承認を得ている（決議No. 1957/QD-BTC（2023年9月15日））。新システム（ハードウェアとソフトウェア双方）は、自動化・一元管理された通関の機能が、VNACCS/VCISとしてAIやビッグデータなどの最先端技術を取り入れて継続されることになっている。職員研修に関しては、IT部門が研修教材、技術スキルやIT知識に関するプログラムの開発を担当している。IT部門とベトナム税関学校が研修コースを組織・運営している。VNACCS/VCISのアップグレード前であることから、JICA支援による他事業も含め、本事業で開発されたすべてのマニュアル/ガイドラインとトレーニング教材が現在も使用されている。

【財務面】

一部のハードウェアの更新と運用・保守サービスを含むシステムの維持管理には、2025年までは国家予算が確保されているが、その後は未定である。システムのアップグレードについては、ベトナム税関とシステム開発者候補との間で協議が続けられている。財務省が前述の「決議No. 1957/QD-BTC」を承認しており、ITシステム開発に必要な予算は準備されている。

【環境・社会面】

本事業に起因する環境・社会面での問題は確認されておらず、対策を講じる必要はない。

【評価判断】

以上より、政策面、制度・体制面、技術面及び財務面に一部問題があり、本事業によって発現した効果の持続性は②と判断される。

5 総合評価

本事業は、プロジェクト目標「VNACCS/VCIS の有効活用によって税関業務が改善される」を一部達成した。事業完了後も、事業の効果は継続している。事後評価時では、「税関手続きの更なる近代化により、貿易円滑化が促進される」という上位目

標はおおむね計画どおり達成された。

効率性に関しては、事業費が計画を大幅に上回った。持続性については、実施機関の政策面、制度・体制面、技術面及び財務面でいくつかの問題が見られた。

以上より、総合的に判断すると、本事業の評価は高いといえる。

III 提言・教訓

実施機関への提言：

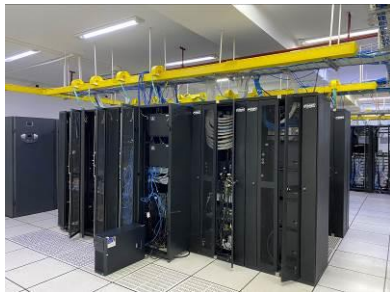
1) VNACCS/VCIS は、導入から 10 年以上が経過し、ハードウェアが耐用年数に達しているが、現行システムの刷新が行われておらず、運用のリスクが高くなっている。現行のシステムの状況を踏まえ、実施機関はあらかじめサプライヤーと調整し、次期システムへの移行を検討すべきである。

2) 上述したように、ベトナム政府は、VNACCS/VCIS に基づき税関体制をより強固にするため、デジタル税関制度を導入する過程にある。税関業務の効率化をめざした本事業を通じて蓄積された専門知識と経験は、今後の更なる通関手続・システム改善の基礎となるものであり、どのような IT システムにも適用することができる。したがって、ベトナム政府は、VNACCS/VCIS のこれまでの安定運用及び活用実績に基づき、本事業を通じて得られた知識と技術を引き続き十分に活用することが推奨される。

JICA への教訓：

1) IT システム関連の技術協力プロジェクトでは、社会経済の発展段階の変化や技術革新の進展に伴い、相手国の政策変更や IT システムの更新が行われる可能性がある。今後の IT システム分野の技術協力の策定・実施にあたっては、相手国の技術革新の進展状況や想定される外部要因、例えば利用量の増加によるシステムへの高負荷等の影響を慎重に分析して対応する必要がある。

2) IT システム関連プロジェクト、特に日本側がハード機材導入に関する資金協力支援とセットで実施する案件では、ハードウェア・ミドルウェア・ソフトウェアの更新・更改等の作業・予算は先方負担・対応である原則を鑑みた場合、持続性の問題に必ず直面する。そのため、案件実施前に財務面・技術面の実施能力の見極めを行うことはもちろん、特にプロジェクト終了後に先方負担事項として求められる各種更改作業のスコープ・スケジュール・先方負担事項（特に各種更改作業・資機材調達に必要となる予算）を明確にしたうえで、それらの先方政府側の実施予算確保とオーナーシップを促し、将来的な依存度合をなるべく高めないような工夫が必要である。また、技術革新のスピードが目覚ましいため、実施機関にシステム開発・設計のノウハウがない場合、将来的な更改に備えるための対策も、案件形成・案件実施時に関係者間でしっかり検討しておくことも必要である。



VNACCS/VCIS のサーバーセンター



VNACCS/VCIS のサポートセンター